

「天かける」私はこう使っている（その1）

I C T担当理事 佐々木伸孝

尾道地域医療・介護連携ネットワークシステム：呼称「天かけるネット」が本格的に稼働して1年以上経過しました。しかし、「天かける」に加入している（毎月の使用料を払っている）だけで、使用されていない先生方も多いように思います。担当理事の周知不足で申し訳ありません。今回、当院（小児科医院）での使用例を報告致します。先生方に少しでも参考になれば幸甚です。

【症例1】19歳の女性、発熱、咽頭痛で受診されました。ここ数日間は、嚥下痛がひどくて、ほとんど食事ができていない状態でした。咽頭発赤は著明で、WBC：12700、CRP：3.0でした。点滴を施行しましたが、食事もできそうにないので、耳鼻咽喉科へ当日紹介致しました。紹介時に「天かける」の同意書を取り連携室へFAX致しました。夕方には、登録済みとなり診察室のパソコンから閲覧できました。画面を開いてみると、入院加療になっていました。抗生剤（2種類）とステロイドの点滴加療が開始され、CT検査も施行されていました。放射線科のレポートを開くと、右扁桃周囲膿瘍と診断されていました。看護スタッフと「紹介してよかった」、「思ったよりCTは悪かった」などCT画像を見ながらカンファレンスを行いました。「CT見ました、よろしくお願いします」とコメントを送ると、数日後に主治医の先生から「ファイバーの所見は改善して、○月○日に退院予定です。外来受診時、咽頭チェックをお願いします」とコメントが返信されてきました。

【症例2】1歳2ヶ月女児で、発熱と両脇を持って抱き上げると右に身体を傾けるとの主訴で受診されました。WBC:19800、CRP:4.5、肝機能・電解質・CK、腹部エコーは異常なし。抱き上げると身体が右に反り返りますが、外傷なく、歩行や上肢の動きにも異常ありませんでした。はっきり原因がわからないので、小児科へ紹介（「天かける」の同意書も同時にFAX）しました。午後に「天かける」を開くと、CTが施行されていました。放射線科のレポートを見ると、左鎖骨骨折の所見が指摘してありました。すぐに看護スタッフを呼んで、鎖骨骨折の画面を見ながら皆で納得しました。咽頭炎による発熱でしたが、骨折の原因は不明でした。

その他、「天かける」登録済みの患者さんが前日の夜間救急を受診されて、翌日当院を受診した場合、お薬手帳等がなくてもパソコン画面から投薬内容、点滴内容、検査内容等がわかり診療がスムーズになります。症例1のように病院主治医と「天かける」を通してコメントのやりとりが、電子カルテを導入していない当院でも簡単にできます。但し、病院側の先生も「天かける」を知らない先生方が多いので、診療所側と病院主治医とのやりとりは、十分にできていないと思っています。これも今後の課題です。

現在当院では、病院へ紹介する際に「天かける」の同意書を取って、診療予約と一緒にFAXしています。そのため紹介した患者さんの経過（どういう検査、処置、加療が行われたか等）が、紹介状の返事を待たなくても受診日、遅くても受診翌日には把握できます。

特に急性疾患の紹介患者は、看護スタッフも気になっています。退院後の返事を待つ結果を報告するよりも、紹介した日にすぐに結果をみて看護スタッフに説明することができて非常に好評です。

今回は、当院での実際の使い方を述べてみました。診療科による使い方の違いもあると思いますので、次回は他科の先生にお願いする予定です。ご期待下さい。